

北里大学メディカルセンター 整形外科専門研修プログラム

目次

1. 北里大学ならびに北里大学医学部整形外科学について.....	2
2. 北里大学整形外科臨床研修プログラムの理念.....	3
3. 北里大学整形外科臨床研修プログラム概要.....	5
4. 北里大学整形外科専門研修の目標.....	13
5. 研修の方法.....	16
6. 研修の評価.....	18
7. 地域医療・地域連携への対応.....	20
8. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修.....	20
9. 専門研修プログラムを支える体制.....	21
10. 専門研修実績記録システム、マニュアル等.....	23
11. 専門研修プログラムの評価と改善.....	25
12. 専攻医の採用と修了.....	26
13. 問い合わせ、病院見学.....	28

添付資料

1. プログラム施設基準と研修プログラム群の概念図
2. 北里大学メディカルセンター病院週間予定
3. 研修スケジュール例
4. 専門知識習得の年時毎の到達目標
5. 専門技能修得の年時毎の到達目標
6. 整形外科専門研修カリキュラム
7. カリキュラム成績表
8. 指導医評価表（専攻医用）
9. 専攻医獲得単位報告書
10. 整形外科専攻医評価表
11. プログラム施設基準と研修プログラム群の概念図

1. 北里大学メディカルセンターならびに北里大学医学部整形外科学について

北里大学は、1962年、北里柴三郎博士が創設した北里研究所の50周年記念事業の一環として、東京都港区白金に創設されました。医学部は、戦後初めて設置された医学部として1970年に開講され、翌年には大学病院が開設され、以降生命医学にたずさわる理科系総合大学として発展してきました。これらの伝統を背景に、1989年に創立75周年の佳節を迎えるにあたり、北里研究所の未来を託すにふさわしい、21世紀を視座に据えた「北里研究所メディカルセンター」事業が現研究所顧問、大村智博士により提案され、地域医療の中核として高度かつ先進的な医療を行うと同時に、地域文化の発信基地としての使命を受け持つべく、平成元年4月、埼玉県北本市に「社団法人北里研究所 北里研究所メディカルセンター病院」を開院しました。開院後、増床を重ね平成14年に救急センター、ICU、ヘリポートを含む新棟（北館）をオープンし、翌15年に地域医療支援病院、災害拠点病院及び臨床研修指定病院の指定も受け、地域医療の更なる発展に努めました。平成20年4月1日には、社団法人北里研究所と学校法人北里学園が統合し、「学校法人北里研究所」が誕生し、病院名も「北里大学北里研究所メディカルセンター病院」に改称し、大学の附属病院となりました。また、法人統合から5年目を迎え平成25年1月1日より新たに病院名を「北里大学メディカルセンター」と名称を変更し、さらに、平成27年1月には学校教育法に定める「医育機関」として医学教育を行う病院となり、「地域医療を追究し学べる病院」を目指しています。

整形外科学教室は1971年に開講し、今年、開講45周年を迎えます。初代・山本 眞教授、2代・糸満盛憲教授と続き、2010年からは高相晶士教授が教室を主宰しています。実際の診療はグループ別に行われており、脊椎、股関節、外傷、膝・足関節、肩関節、手、スポーツの各グループが専門的な医療を提供しています。北里メディカルセンターでは、主に膝関節、股関節、骨粗鬆症などの専門的治療から、一般外傷まで幅広く治療をしております。平成25年12月からは、膝関節において、自家培養軟骨細胞移植術も行っております。また、学術面では定期的に基礎・臨床研究の進捗状況を報告し合うプログ्रेसミーティング(研究進捗検討会)や整形外科論文の抄読会を通じ、臨床研究のみならず、基礎研究、トランスレーショナル・リバーstransレーショナル研究に関して最新の知見を得ています。これらの環境に加え、何よりも指導医は、後輩の育成を自らの使命と考えております。

2. 北里大学メディカルセンター整形外科臨床研修プログラムの理念

整形外科専門医は、老若男女問わず国民を苦しめる、幅広い筋骨格系の運動器疾患を治療の対象とし、国民に質の高い運動器医療を提供することが求められます。厚生労働省によって行われる国民生活基礎調査によると、男女共に腰痛、肩こり、関節痛が有訴者率のランキングで上位を占めており、高齢者の増加と相まって今後も患者数は増加すると推定されています。整形外科は、日常で良く遭遇する疾患や外傷のみならず、全身の筋骨格系に生じうる、時には稀な疾患にも対応しなければなりません。北里大学整形外科臨床研修プログラムは、医師として必要な一般的な臨床能力の習得、ならびに運動器疾患全般に対し、具体的に実践できる診療能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

この理念を達成するために、当専門研修プログラムとしては、以下の5つを重視しております。

1. 豊富な知識と経験

整形外科医師としてあらゆる運動器疾患に関する知識を系統的に理解する。また、研修期間中に様々な疾患を実際に経験し、将来自身で自立して実践する医療の土台を形成する。

2. 自己研鑽

あらゆる運動器疾患に対し、知識や経験を通じて生じた臨床的な疑問点を解明しようとする姿勢を生涯にわたって持つ。その解答を科学的・論理的に解決する姿勢・能力を身につける。

3. 専門医としての資質

豊かな人間性と高い倫理観の元に職責を自覚する。高度なチーム医療による、患者中心の安全な医療を実践し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する。

4. 実践的な技術

豊富な症例数に基づいた多岐にわたる研修により、運動器全般に関して統合された知識・経験・態度に基づく的確な診断・治療を行う能力を習得し、患者さんに提供する。

5. 医学研究への志向

整形外科学を学問的に発展させ、整形外科医療の進歩・改善に資するべく臨床研究を行う素養を身につける。北里大学メディカルセンター整形外科臨床研修プログラムにおいては、豊富な経験を持つ指導医が専攻医の教育・指導にあた

ります。本研修プログラムでの研修後には、あらゆる運動器疾患に対し、高度で安全な、患者さんから信頼される医療を、自信を持って提供する能力が備わるとともに、将来の整形外科領域をリードする医師となることが期待されます。

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となります。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、本研修プログラムでは1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全力リキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数以上を修得し、3年9ヶ月で45単位を修得する研修を行います。

また学会での研究発表（年1回以上）と論文執筆（研修期間中1編以上）を行うことによって、各専門領域における臨床研究に深く関わりを持つことができます。本研修プログラム修了後に、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の研修にシームレスに移行できます。また、3年目までに十分な研修が達成された専攻医については、4年目に北里大学大学院に入学し、連携施設に勤務しながら研究を開始し、大学院2年目より北里大学へ戻り、1年早く学位を取得することも可能です。

3. 北里大学メディカルセンター整形外科臨床研修プログラム概要

本研修プログラムでは、基幹施設および連携施設全体において、一般整形外科の症例の経験に加え、関節、スポーツ医学、手の外科、外傷、小児整形などの専門性の高い診療を早い時期から経験することで、自身が興味を持つ、専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修への継続が可能です。また基幹施設である北里大学メディカルセンターにおける研修では、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修に加え、希望に応じてその後の大学院進学に備えた臨床研究および基礎研究への深い関わりを持つことが可能です。また、スポーツドクターとしてプロのアスリートの診療や競技団体のサポートを行っている医師が複数在籍しており、研修中または修了後に、スポーツドクターとして試合や練習の現場に帯同する機会を得ることも可能です。

①専門研修施設一覧

北里大学メディカルセンターを基幹施設とし、整形外科専門研修プログラムの専門研修連携施設は以下に示す71 病院で、神奈川県内9 施設、東京都内4 施設に加え、静岡県、千葉県、長野県、沖縄県、新潟県、福岡県、大分県、佐賀県、長崎県、宮崎県、山口県、広島県、北海道にあります。

	施設番号	施設名	所在地
基幹施設	0	北里大学メディカルセンター	埼玉県北本市
連携施設	1	北里大学病院	神奈川県相模原市
	2	北里研究所病院	東京都港区
	3	町田市民病院	東京都町田市
	4	清水厚生病院	静岡県静岡市
	5	JCHO 東京城東病院	東京都江東区
	6	聖隷佐倉市民病院	千葉県佐倉市
	7	渕野辺総合病院	神奈川県相模原市
	8	河北総合病院	東京都杉並区
	9	愛川北部病院	神奈川県愛甲郡
	10	藤沢湘南台病院	神奈川県藤沢市
	11	くろさわ病院	長野県佐久市
	12	黒河内病院	神奈川県相模原市
	13	横浜総合病院	神奈川県横浜市
	14	相模台病院	神奈川県座間市
	15	沖縄県立北部病院	沖縄県名護市

16	丘整形外科病院	神奈川県相模原市
17	湘南東部総合病院	神奈川県茅ヶ崎市
18	中条中央病院	新潟県胎内市
19	浅間総合病院	長野県佐久市
20	富士整形外科病院	静岡県富士市
21	聖隷横浜病院	神奈川県
22	汐田総合病院	神奈川県
23	川崎協同病院	神奈川県
24	松戸整形外科病院	千葉県
25	富士宮市立病院	静岡県
26	座間総合病院	神奈川県座間市
27	湘南平塚病院	神奈川県平塚市
28	茅ヶ崎中央病院	神奈川県
29	下北沢病院	東京都世田谷区
30	九州大学病院	福岡県福岡市
31	九州医療センター	福岡県福岡市
32	市立こども病院	福岡県福岡市
33	福岡市民病院	福岡県福岡市
34	福岡赤十字病院	福岡県福岡市
35	九州中央病院	福岡県福岡市
36	福岡整形外科病院	福岡県福岡市
37	九州労災病院	福岡県北九州市
38	JCHO 九州病院	福岡県北九州市
39	製鉄記念八幡病院	福岡県北九州市
40	飯塚病院	福岡県飯塚市
41	田川市立病院	福岡県田川市
42	総合せき損センター	福岡県飯塚市
43	広島赤十字・原爆病院	広島県広島市
44	唐津赤十字病院	佐賀県唐津市
45	佐世保共済病院	長崎県佐世保市
46	大分赤十字病院	大分県大分市
47	別府医療センター	大分県別府市
48	県立宮崎病院	宮崎県宮崎市
49	JCHO 登別病院	北海道登別市
50	山口赤十字病院	山口県山口市

本専門研修プログラムでは、地域医療の中心的立場で医療を提供する北里大学メディカルセンターを基幹施設として、特色を持った連携施設で研修を行います。年間1,000例以上の手術件数を行う大型総合病院として北里大学病院、北里研究所病院、聖隷佐倉市民病院、藤沢湘南台病院、都市型総合病院である横浜総合病院、町田市民病院、河北総合病院、湘南東部総合病院、渕野辺総合病院があり、さらに各分野の最先端治療を行う高度専門領域研修病院として、JCHO東京城東病院、聖隷佐倉市民病院と連携しています。また、地域における中核病院として清水厚生病院、愛川北部病院、相模台病院、くろさわ病院、黒河内病院、丘整形外科病院、中条中央病院、浅間総合病院、富士整形外科病院、沖縄県立北部病院といった連携施設を整備し、専攻医の多様なニーズに対応すべく連携施設を整備・充実させています。

北里大学病院、北里研究所病院、藤沢湘南台病院、横浜総合病院、町田市民病院、湘南東部総合病院、渕野辺総合病院、河北総合病院のような大規模な病院では救急医療としての外傷に対する研修に加えて、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修を受けることができます。一方高度専門領域研修病院として、JCHO 東京城東病院では股関節、手の外科、脊椎、聖隷佐倉市民病院では脊椎、特に脊柱変形に対する専門性の高い研修を受けることができます。また清水厚生病院、愛川北部病院、相模台病院、くろさわ病院、黒河内病院、丘整形外科病院、中条中央病院、浅間総合病院、富士整形外科病院、沖縄県立北部病院においては、地域医療の拠点として、地域医療ならびに、地域での外傷に対する質の高い研修を幅広く受けることができます。現在、専攻医が所属する地域研修病院では、専攻医一人当たりの手術執刀件数は全病院で100例を超えています。執刀した症例は原則として主治医として担当することで、医師としての責任感や、患者やメディカルスタッフなどと良好な信頼関係を構築する能力が身に付きます。専門研修プログラムに参加する基幹施設および連携施設の設置基準および構成要件については、添付する資料1：プログラム設置基準と研修プログラム群の概念図を参照して下さい。

②連携病院である北里大学病院での研修

北里大学病院での研修では、全てのサブスペシャリティ領域の最先端の治療を学ぶことができます。同世代の医師と共に研修を行うことで、生涯続く素晴らしい人間関係を築くことができます。大きな組織の中で、若手医師のみならず、ベテラン医師を含む様々な世代から指導を受けることで、今後、一流の整形外科医となるには欠くことができない多くのことを学ぶことができます。

北里大学整形外科に所属する医師が筆頭著者として公表したPubmed 掲載英語論文は2015年14編、2016年18編、2017年19編、2018年23編と増加傾向で、学術活動も活発です。診療の傍ら、初年度より積極的に学会発表、論文作成を行うことによりリサーチマインドを育成します。週間スケジュールの例を、下図および資料2：北里大学病院週間予定に示します。

北里大学病院整形外科週間予定（共通）

	月	火	水	木	金
午前	教授回診		手術カンファ		
午後	抄読会 リサーチ カンファ				症例カンファ

北里大学病院整形外科週間予定（診療グループごと）

分野	指導 医数		曜日				
			月	火	水	木	金
脊椎	4	午前	外来（新患・再来）	手術	病棟	外来（新患・再来）	手術
		午後	外来（再来） グループ 回診	手術 症例カン ファ	脊髄造影 検査 ブロック 注射	外来（再 来） 脊髄造影 検査	手術
股関節	4	午前	外来（新患・再来）	外来（新患・再来）	手術	病棟	手術
		午後	外来（再来） 関節造 影・ブロ ック	外来（再 来） グループ 回診・カ ンファ	手術	病棟	手術
膝／足 関節 （小 児）	4		手術 外来（新 患・再 来）	手術	外来（新 患・再 来）	手術	外来（新 患・再 来）
			手術	手術	病棟 グループ 回診・カ ンファ	手術	外来（再 来）
上肢/手 の外科	2	午前	手術	病棟	外来（新 患・再	手術	病棟

					来)		
		午後	手術	病棟	外来 (再来)	手術	病棟 グループ 回診・カンファ
外傷	3	午前	手術 救急対応 グループ 回診	手術 救急対応 グループ 回診	手術 救急対応 グループ 回診	手術 救急対応 グループ 回診	手術 救急対応 グループ 回診
		午後	手術 救急対応・	病棟 救急対応	病棟 救急対応	病棟 救急対応	手術 救急対応
スポーツ	3	午前	手術 外来 (再来)	手術 外来 (再来)	手術	手術	特殊検査
		午後	手術 外来 (再来)	手術 外来 (再来)	手術 グループ カンファ	手術	外来 (新患・再来)

③連携施設での研修

研修期間2年間のうち平均2年程度は当プログラムの連携施設で研修を行います。連携施設での研修期間は、最短で6ヶ月、最長で3年6ヶ月になります。3年9ヶ月の研修スケジュールの例を、下図および資料3：研修スケジュール例に示します。

各施設のローテーション例

	1年目	2年目	3年目	4年目
専攻医1	0, 1	2	11	8
専攻医2	0, 1	3	4	10
専攻医3	0, 1	4	3	17
専攻医4	0, 1	5	12	10
専攻医5	0, 1	6	14	13
専攻医6	0, 1	8	16	0
専攻医7	0, 1	9	0	0
専攻医8	0, 1	10	7	0
専攻医9	0, 1	13	0	18, 0

専攻医 10	27, 35	0	62	37
--------	--------	---	----	----

研修1年目は、各研修医が北里大学メディカルセンター（0）を順番にローテーションし、2～3カ月間ずつ研修を行います。

単位取得例

	専攻医 1					専攻医 2					専攻医 3				
	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	修 了 時	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	修 了 時	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	修 了 時
研修 施設	0, 1	2	11	8		0, 1	3	4	10		0, 1	4	3	17	
a	3	3			6	1	2		3	6	2		4		6
b	2		2	2	6	3			3	6	3			3	6
c	3	3			6	2		3	1	6	3			3	6
d		3	3		6		2	2	2	6		2	2	2	6
e		3			3			3		3		3			3
f				3	3	2	1			3			3		3
g			3		3				3	3		3			3
h				3	3			3		3		3			3
i	2				2	2				2	2				2
j	2				2	2				2	2				2
流動	0	0	3	2	5	0	4	1	0	5	0	1	2	2	5

	専攻医 4					専攻医 5					専攻医 6				
	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	修 了 時	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	修 了 時	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	修 了 時
研修 施設	0, 1	5	12	10		0, 1	6	14	13		0, 1	8	16	0	
a	3	3			6	3	3			6	3		3		6
b	2	2		2	6	2	2	2		6		2	2	2	6
c	2	2		2	6	2	2	2		6	1	3		2	6
d			3	3	6	1		2	3	6	3		3		6
e		3			3		3			3		3			3
f	1		2		3			3		3	1	1	1		3
g				3	3				3	3		3			3
h			3		3			3		3			3		3
i	2				2	2				2	2				2

j	2				2	2				2	2				2
流動	0	2	2	1	5	0	2	0	3	5	0	0	0	5	5

	専攻医 7					専攻医 8					専攻医 9				
	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	修 了 時	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	修 了 時	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	修 了 時
研修 施設	0, 1	9	0	0		0, 1	10	7	0		0, 1	13	0	18 ,0	
a	2		2	2	6	2		3	1	6	1	3	1	1	6
b	1	3	1	1	6	1	2	3		6	1	3	1	1	6
c	1		2	3	6	3	1	2		6	1	1	2	2	6
d	3		2	1	6		3	1	2	6	3		2	1	6
e	1		1	1	3	1			2	3	1		1	1	3
f		3			3	1			2	3			1	2	3
g		3			3		3			3	1	2			3
h		3			3			3		3		3			3
i	2				2	2				2	2				2
j	2				2	2				2	2				2
流動	0	0	2	3	5	0	2	0	3	5	0	0	2	3	5

	専攻医 10				
研修 施設	27, 35	0	62	37	
a	2		2	2	6
b	1	3	1	1	6
c	1	3	1	1	6
d	2	2		2	6
e	1	1	1		3
f		2	1		3
g	1		1	1	3
h			3		3
i	2				2
j	2				2
流動	0	1	2	2	5

a:脊椎, b:上肢/手, c:下肢, d:外傷, e:リウマチ, f: リハビリテーション
g: スポーツ, h:地域医療, i:小児, j:腫瘍

各専門研修コースは、各専攻医の希望を考慮し、個々の希望するプログラムの内容に対し、個別に対応できるように研修コースを作成します。流動単位の5単位については、必須単位取得後にさらなる経験が必要と考えられる分野や、将来希望する専門分野を重点的に研修することが可能です。

④プログラム修了後の進路

当研修プログラム修了後の進路としては、以下のようなコースがあります。

i. 一般病院コース

本研修プログラムに含まれる連携施設を中心に、その他を含めた一般病院で勤務します。本研修プログラムで習得した技術を生かし、専門性の高い医療を提供したり、地域医療に貢献したり、様々な勤務形態が選択可能です。希望に応じ、北里大学病院の各専門診療グループに所属し、定期的、あるいは不定期的に専門研修を継続することが可能です。

ii. 大学院入学コース：

研修終了の翌年度より整形外科に関連する大学院講座に入学し、主に基礎研究を行います(疼痛、骨粗鬆症や同種骨に関連する骨代謝、骨・軟骨・神経再生、外傷の新規治療法の確立、脊椎・関節に関連する解剖などの基礎研究)。希望に応じて、在学中臨床に係わることもできます。大学院卒業後は、大学や連携施設で一般整形外科や専門領域の研修に進み、各分野の臨床、研究に従事します。

iii. 大学病院スタッフコース

研修プログラム終了後に専門領域の研修に直接進む場合には、進みたい領域の専門診療グループに所属し、北里大学病院において専門領域の研修を継続して行います。

上記3つのコースいずれに進むかを各専攻医は選択できますが、各コースを最終的に選択する前に、一時的に1~2年程度、北里大学病院に所属し、各分野の専門チームの一員として勤務することで、専門領域の技術を向上させることが可能です。

その他、希望に応じて国内外への留学を行い、希望する領域の経験を深める

選択肢もあります。いずれのコースにおいても研修終了翌年度から行うためには、専攻研修4年目の6月の時点で、後述する修了認定基準を満たす見込みが得られていることが必要ですが、3年目までに十分な研修が達成された専攻医については、4年目に北里大学大学院に入学し、連携施設に勤務しながら研究を開始し、1年早く学位を取得することも可能です。

4. 北里大学整形外科専門研修の目標

① 専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシー（基本的診療能力）が習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること。
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。

② 到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）

1) 専門知識

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を涵養します。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得します。専門知識習得の年次毎の到達目標を別添する資料4 に示します。

2) 専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医としてあらゆる運動器に関する幅広い基本的な専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）を身につけます。専門技能習得の年次毎の到達目標を、別添する資料5 に示します。

3) 学問的姿勢

「臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学

的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得すること」を一般目標とし、行動目標として以下を定めます。

- i. 経験症例から研究テーマを立案しプロトコールを作成できる。
- ii. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
- iii. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
- iv. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
- v. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
- vi. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

4) 医師としての倫理性、社会性など

「医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守できる」を一般目標とし、行動目標として以下を定めます。

- i. 医師法等で定められた医師の義務を知っている。
- ii. 医療法の概略、特に療養担当規則を理解している。
- iii. 医療行為に関する上記以外の法律(健康保険法・薬事法など)を十分に理解し、遵守できる。
- iv. 医療倫理、医療安全の重要性を理解し実践できる。
- v. DOH (Declaration of Helsinki)、日本医師会の「医の職業倫理綱領」を知っている。
- vi. 患者やその家族と良好な信頼関係を確立することができる。

また、患者およびその家族と良好な信頼関係を築くことができるようコミュニケーション能力と協調による連携能力を身につけます。さらに、医療職スタッフとのコミュニケーション能力を身につけ、関連する医療従事者と協調・協力してチーム医療を実践する能力を身につけます。

③経験目標（種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法等）

1) 経験すべき疾患・病態

別添する資料6：整形外科専門研修カリキュラムに沿って研修します。経験すべき疾患数と病態数については、資料6を参照して下さい。

2) 経験すべき診察・検査等

別添する資料6：整形外科専門研修カリキュラムに明示した経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は資料5：専門技能習得の年次毎の到達目標に示します。Ⅲ診断基本手技、Ⅳ治療基本手技については4年間で5例以上経験します。

3) 経験すべき手術・処置等

別添する資料6：整形外科専門研修カリキュラムに明示した一般目標及び行動目標に沿って研修します。経験すべき手術・処置等の行動目標に沿って研修します。160例以上の手術手技を経験し、そのうち術者としては80例以上を経験します。尚、術者として経験すべき症例についても、資料6に示します。本専門研修プログラムの基幹施設である北里大学病院整形外科では、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。症例を十分に経験した上で、上述したそれぞれの連携施設において、施設での特徴を生かした症例や技能を広くより専門的に学ぶことができます。

4) 地域医療の経験（病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など）

別添する資料6：整形外科専門研修カリキュラムの中にある地域医療の項目に沿って周辺の医療施設との病病・病診連携の実際を経験します。また研修期間内に、地域研修病院に最低3ヶ月勤務します。他県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。神奈川県や東京都とは別の地域における整形外科診療や病病連携、病診連携を経験することを目的に、他県での研修を行います。

5) 学術活動

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得します。加えて、本研修プログラムでは学術活動として、下記2項目を定めています。

- i. 国内外での学術集会での発表（年1回以上）
- ii. 論文執筆（研修期間中1編以上、日本語、英語原著共に可）

これらの経験を通し、臨床研究に対する考え方を習得することができ、また学会発表に対する訓練を積むことができます。

5. 研修の方法

① 臨床現場での学習

研修内容を修練するにあたっては、別添した研修方略（資料7）に従って1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月で45単位を修得します。尚、術者として経験すべき症例については、別添する資料6：整形外科専門研修カリキュラムに示した（A：それぞれについて最低5例以上経験すべき疾患、B：それぞれについて最低1例以上経験すべき疾患）疾患の中のものとします。整形外科研修カリキュラムに掲げてある行動目標、一般目標に沿って、整形外科領域指導医の基で外来診察、手術、病棟管理業務等を通して病態の把握、治療方針の決定過程を学びます。また、定期的実施される抄読会や勉強会を通し、最新の医療情報を習得します。手術カンファレンスで、病態と診断過程や治療計画作成の理論を理解するとともに、術式やリスク、ベネフィットを理解し、整形外科的専門技能を学びます。また、関連診療科との合同カンファレンスを通じて、他職種との協力におけるリーダーシップを養成します。

② 臨床現場を離れた学習

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演（医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む）に参加します。また関連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで国内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。本研修プログラムでは、相模原市、あるいは神奈川県内で開催される整形外科研修会や研究会（年100回以上）に参加することにより、多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

また、現在解剖学講座の主導でClinical Anatomy Laboratoryを設置する計画が進んでおり、将来的に新鮮凍結屍体を用いた手術手技研修の開催を視野に準備を進めております。

③ 自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、日本整形外科学会が作成する e-Learning や Teaching file などを活用して、より広く、より深く学習することができます。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用 DVD 等を利用することにより、診断・検査・治療等についての教育を受けることも

できます。

6. 研修の評価

①形成的評価

1) フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に、日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表（資料8）の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表（資料9）で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表（資料8）の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。尚、これらの評価は日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムからweb で入力します。指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

2) 指導医層のフィードバック法の学習

指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案（研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成）、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

②総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

専門専攻研修3年目の12月に、研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを習得したかどうかを判定します。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は、専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

3) 修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。修了認定基準は、以下の全てを満たしていることです。

- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること（別添の専攻医獲得単位報告書（資料10）を提出します）。
- ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
- v. 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

4) 他職種評価

専攻医に対する評価判定に、他職種（看護師、技師等）の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い、専攻医評価表（資料11）に記入します。専攻医評価表には、指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

7. 地域医療・地域連携への対応

整形外科専門医制度は、地域の整形外科医療を守ることを念頭に置いています。地域医療研修病院における外来診療および二次救急医療に従事し、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また地域医療研修病院における周囲医療機関との病院連携、病診連携を経験・習得します。本研修プログラムでは、神奈川県をはじめ、静岡県、千葉県、長野県、沖縄県、新潟県の連携施設で3 か月以上勤務することにより、これを行います。

地域において指導の質を落とさないための方法として、地域医療研修病院の指導医には 北里大学整形外科が主催する卒後研修会の参加を義務付け、多領域における最新知識に関する講義を受けることを必須としています。また研修連携施設の指導医は、研修プログラム管理委員会に参加するとともに、自らが指導した専攻医の評価報告を行います。同時に、専攻医から研修プログラム管理委員会に提出された指導医評価表に基づいたフィードバックを受けます。

8. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。女性医師にとっては特に家庭や育児との両立も課題となりますが、女性医師の多い本学において、当プログラムでは出産・育児に対してもフレキシブルに対応しています。

9. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である北里大学メディカルセンターにおいては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。プログラム統括責任者および専門研修指導医の設置基準については、添付する資料1：プログラム設置基準と研修プログラム群の概念図を参照してください。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表（資料9）や専攻医評価表（資料11）などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために、専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。整形外科専門研修プログラムには、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者と1名の副プログラム統括責任者を設置します。

② プログラム管理委員会の役割と権限

研修基幹施設において整形外科専門研修プログラムと整形外科専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を設置します。整形外科専門研修プログラム管理委員会は、整形外科専門研修プログラム統括責任者（基幹病院の指導管理責任者が兼務）副統括責任者および連携施設の指導管理責任者で構成します。

1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成、研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。整形外科研修プログラム管理委員会は、研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

2) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が専門医研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断するこ

とを勧告することができます。

3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修修了判定を行いません。

③ 労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設の病院規定によります。

- 1) 研修施設の責任者は、専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は、専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- 4) 施設の給与体系を明示します。

10. 専門研修実績記録システム、マニュアル等

①研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として、日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムを用いて整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価及び症例登録を web 入力で行います。日本整形外科学会非会員は、紙評価表を用います。

②人間性などの評価方法

指導医は、別添の研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表（資料11）を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

③プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル（日本整形外科学会ホームページ参照）、②整形外科指導医マニュアル（日本整形外科学会ホームページ参照）、③専攻医取得単位報告書（資料10）、④専攻医評価表（資料11）、⑤指導医評価表（資料9）、⑥カリキュラム成績表（資料8）を用います。③、④、⑤、⑥は整形外科専門医管理システムを用いて web 入力することが可能です。日本整形外科学会非会員の場合、紙評価表、報告書を用います。

・専攻医研修マニュアル

日本整形外科学会が作成した整形外科専攻医研修マニュアルを日本整形外科学会ホームページで参照して下さい。自己評価と他者（指導医等）評価は、整形外科専門医管理システムにある④専攻医評価表（資料11）、⑤指導医評価表（資料9）、⑥カリキュラム成績表（資料8）を用いて web 入力します。

・指導者マニュアル

日本整形外科学会が作成した別添の整形外科指導医マニュアルを日本整形外科学会ホームページで参照してください。

・専攻医研修実績記録フォーマット

整形外科研修カリキュラム（資料6）の行動目標の自己評価、指導医評価及び経験すべき症例の登録は、日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムを用いて web フォームに入力します。非学会員は紙入力で行います。

- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表、指導医評価表web フォームに入力することで記録されます。尚、非学会員は紙入力で行います。

- ・ 指導者研修計画の実施記録

指導医が、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講すると指導医に受講証明書が交付されます。指導医はその受講記録を整形外科専門研修プログラム管理委員会に提出し、同委員会はサイトビジットの時に提出できるようにします。受講記録は日本整形外科学会でも保存されます。

11. 専門研修プログラムの評価と改善

①専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーションの終了時（指導医交代時）毎に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

②専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専攻医は、各ローテーション終了時に指導医や研修プログラムの評価を行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出し、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

③研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応し、プログラムの改善を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

12. 専攻医の採用と修了

① 採用方法

1) 応募資格

初期臨床研修修了見込みの者であること。

2) 採用方法

連携施設である北里大学病院整形外科に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年6月末頃より説明会やワークショップなどを複数回行い、整形外科専攻医を募集します。

原則として前年度の10月から書類選考および面接を開始し、整形外科専門研修プログラム管理委員会で採否を決定して、本人に文書で通知します。

3) 必要書類

プログラムへの応募者は、プログラム統括責任者の北里大学メディカルセンター整形外科学・占部 憲（うらべけん）宛に以下の書類を提出してください。

- ・北里大学メディカルセンター整形外科専門研修プログラム応募申請書
- ・履歴書
- ・医師免許証のコピー
- ・初期臨床研修終了見込証明書
- ・健康診断書

申請書は、北里大学整形外科学 のホームページ

URL：<http://kitasato-orthopsurg.jp> の問い合わせフォームより、申請書の請求を行って下さい。

4) 送付先

〒364-8501 埼玉県北本市荒井6-100

北里大学メディカルセンター整形外科

担当： 占部 憲（副院長・研修プログラム統括責任者）

5) 応募期間

採用前年度の10月1日頃～

6) 専攻医受入数 12名

各専攻医指導施設における専攻医総数の上限（4 学年分）は、当該年度の指導医数×3 となっています。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。またプログラム参加施設の合計の年間新患者数と年間手術数で専攻医の数が規定されています。

② 修了要件

以下の 1) ～ 5) の修了認定基準をもとに、専攻研修3 年目の12 月に、整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

- 1) 各修得すべき領域分野に求められる必要単位を全て満たしていること。
- 2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- 3) 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- 4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
- 5) 1 回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

13. 問い合わせ、病院見学

①本研修プログラムに関する問い合わせ

〒364-8501 埼玉県北本市荒井6-100

北里大学メディカルセンター

担当：占部 憲

Tel：048-593-1212（代表）

Email：kenurabe@med.kitasato-u.ac.jp

②病院見学の申し込み

北里大学メディカルセンター整形外科では随時、病院見学を受け付けています。整形外科学のホームページ（URL: <http://kitasato-orthopsurg.jp>）の問い合わせフォームから連絡頂くか、占部 憲（kenurabe@med.kitasato-u.ac.jp）までメールでご相談下さい。